

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.330

2022.08/01 (月曜) 12:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 長期継続前兆 続報 誤差内の可能性について検討

図1

PBF (Periodic Baseline Fluctuation anomaly) 周期的基線のうねり変動

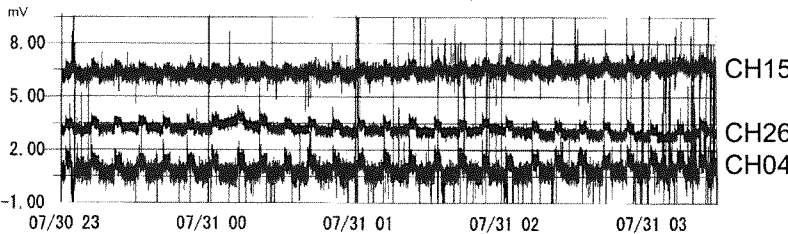


図3

M7.8以上が推定されたPBF

- 2012.06/27 : M7.8±0.3
- 2013.01/14 : M7.9±0.3
- 2013.11/11 : M7.8±0.3
- 2021.04/17 : M8.0±0.3
- 2022.07/23 : M8.0±0.3

14年継続した長期前兆について、7/29~31に対応地震発生の可能性があると報告致しました。現在まで発生はありません。

図1波形のとおり、PBFが継続出現中です。出現状況は図2のとおりで、7/26朝までは

図4

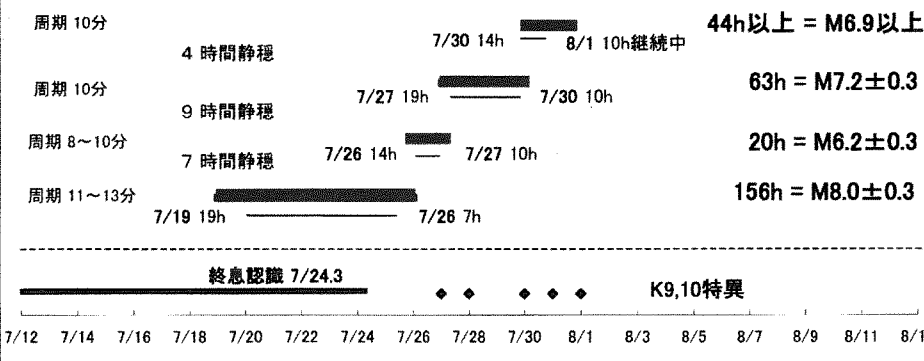
- ①7/28±3
- ②7/30±3
- ③7/30±3
- ④7/27±3
- ⑤7/28±3
- ⑥7/28±3
- ⑦7/28±5
- ⑧7/29±3
- ⑨7/28±3
- ⑩7/29±3
- ⑪7/29±3
- ⑫7/31±3
- ⑬7/29±3
- ⑭7/29±3
- ⑮7/29±3
- ⑯7/28±3

156時間継続しましたが、その後は7時間、9時間等、静穏時間を挟んで、再出現しています。図3はNo.1778として観測されたM7.8以上が示唆されるPBFの出現です。各日付は極大認識日です。M8.0±0.3を大きく越えるPBFは観測されておりません。図2のPBF出現状況のとおり、7/26朝以降出現のPBFまで全て合算しますとM8.5を超えることになり、図3の推定される規模

図2

No.1778関連認識 2022

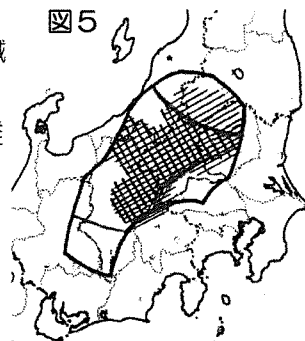
PBF (Periodic Baseline Fluctuation anomaly)
CH26/04/07/15/(12/14/17) 同期出現



と調和しなくなります。さらに7/26朝までのPBFと、それ以降のPBFではPBFの波形周期も若干異なります。図2の下段に表した前兆変動は高知観測点K9,K10の特異です。7/24.3終息認識後、静穏期間を経て断続的に特異変動が出現しています。最近の変動は7/31朝が極大認識です。1995.1/17発生の兵庫県南部地震も2018.9/6発生の胆振東部地震も前兆変動静穏期以降も前兆変動が継続し、それは余震の前兆変動と認識され、実際の余震活動とも調和しました。今回推定されます地震は地殻地震で規模が大きいことから、余震の前兆変動が現れないと不調和と考えておりました。これらのことから、主地震前兆変動は終息しており、図2のPBFの下から2段目より上の出現並びにK9,K10の変動は、まだ前兆変動出現期間内と考えるよりは、余震活動の前兆変動である可能性が否定できません。図4は現在の第25ステージ後半に出現した変動関係から推定される発生時期(修正版)です。7/29が多かったことから7/29の可能性を考えましたが、7/30±3、7/31±3もあることから、最も遅い時期の7/31±3と修正し、8/3まで可能性があることと修正致します。8/3までに発生なき場合は、

- ◆推定領域：図5太線内領域内(火山近傍領域)
複線域=可能性考え易い参考推定領域
- ◆推定規模：M8.0±0.3
地震に伴う近隣火山の噴火=完全否定は困難
何らかの火山活動活発化の可能性否定困難
- ◆推定時期：2022年8月3日まで
8月3日までに発生なき場合は現認識間違い
上記以降の可能性として観測データを鑑み続報

図5



前述の認識が間違っていることになり、7/31極大として、第26ステージに入った可能性として8/3以降の可能性を続報させて頂きます。申し訳ありません。また今回のPBFを加えますと、図5推定領域が複斜線域に絞られる可能性がございましたので、併せてご報告させて頂きます。

- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：AM 9:00±2 又は PM 5:00±3